

# もはや抑へられない中国の台頭 日本も徴兵制復活の論議を

## 山本徳造 (ジャーナリスト)



アジア太平洋がきな臭い。発火寸前と断言してもよいだらう。もつとも象徴的なのが、混乱が続く香港である。「逃亡犯条例」改正案をきっかけに巻き起こった大規模な抗議活動は、香港行政長官が同条例を廃案にすると表明したにもかかわらず、収拾の目途はたつておかない。二〇一四年に香港で民主化運動が起きたが、このとき若者たちのリーダーの一人として「雨傘運動」を牽引した黄之鋒氏は、今回の民主化要求デモに関係したとして当局に二度も拘束される。が、釈放後に出国した黄氏が最初に訪れたドイツで記者会見し、国際社会の支持を呼び掛けた。

証言して民主運動への支持を訴へる。さらにペロシ下院議長ら民主共和両党の議員たちと一緒に記者会見を行ふ。ペロシ氏は中国政府の抑圧に対し、香港での人権尊重と民主主義の確立を支援する法案を議会で可決する考へを示す。もちろんこの動きに中国は黙つておなかつた。中国外務省は会見で「香港は中国の香港であり、完全に中国の内政問題だ」と主張し、公聴会に出席した黄氏を強く批判した。

では、アメリカが香港に介入することはあるのか。結論から言へば、積極的な介入はないだらう。トランプ大統領が中国との貿易交渉カードの一つとして香港を持ち出すことはあつても、米議会がこの法案を優先的に審議することは、まづ考へられない。イラン問題で手が一杯のアメリカである。香港でのトラブルにまで巻き込まれたくないといふのが本音だ。それを十分知つてゐる中国は今後、じわじ

令和元年10月号(268号)  
(皇紀2679年) 毎月1日発行

# 新風

編集人 瀬戸開

発行人 魚谷哲央  
年間購読料 2,000円

維新政党・新風本部  
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル  
第2ふじビル4階  
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800  
<https://shimpu.jpn.org/>  
otayori@shimpu.jpn.org

### 〈中国の武力介入あるのか〉

ドイツの後にアメリカを訪れた黄氏は九月十七日、議会の公聴会で「中国と香港政府によつて国際的な都市が暴力的な監視都市に変へられ

わと香港の民主派・香港独立派を締め付けるだらう。残念なことだが、希望的な観測は除去すべきである。香港特別行政区政府が戒厳令を敷いて市民の活動を大幅に規制することも大いに考へられるし、あるひは中国が香港に武力介入したとしても何ら不思議ではないのである。中国とその傀儡

助を餌にしてフン・セン首相を取り込み、もはやカンボジアは中国なしには生きていけない状態である。当然、中国の要求はすべて受け入れざるを得ない。

N(東南アジア諸国連合)の将来は日本ではなく、中国が左右することになる。〈親中に傾く南太平洋島嶼国〉

ASEANの将来は中国が左右する。東南アジアを見てみよう。独裁者のフン・セン率ゐるカンボジアは、完全に中国の操り人形になつてしまつた。多額の有償・無償援

助を餌にしてフン・セン首相を取り込み、もはやカンボジアは中国なしには生きていけない状態である。当然、中国の要求はすべて受け入れざるを得ない。

とところで、台湾はどうか。台湾の呉釗燮外交部長は九月十六日、ソロモン諸島が台湾に代はつて中国との外交関係を承認する決定を下したことを受け、一九八三年から台湾と外交関係を維持してきたソロモン諸島との国交を断絶したと発表する。ソロモン諸島は、台湾が外交関係を有する南太平洋の島嶼国の中で最大の国

### 〈ASEANの将来は中国が左右する〉

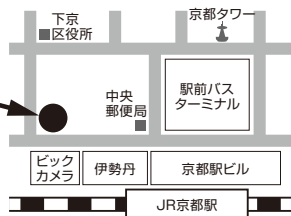
東南アジアを見てみよう。独裁者のフン・セン率ゐるカンボジアは、完全に中国の操り人形になつてしまつた。多額の有償・無償援

助を餌にしてフン・セン首相を取り込み、もはやカンボジアは中国なしには生きていけない状態である。当然、中国の要求はすべて受け入れざるを得ない。

とところで、台湾はどうか。台湾の呉釗燮外交部長は九月十六日、ソロモン諸島が台湾に代はつて中国との外交関係を承認する決定を下したことを受け、一九八三年から台湾と外交関係を維持してきたソロモン諸島との国交を断絶したと発表する。ソロモン諸島は、台湾が外交関係を有する南太平洋の島嶼国の中で最大の国

## 維新政党・新風結党第8期結節の 令和元年党大会に結集しよう

令和元年11月10日(日)  
於・キャンパスプラザ京都  
2Fホール



京都市下京区西洞院通塩小路下る  
東塩小路町939(JR京都駅西側すぐ)  
☎075-353-9111

- 開会式(正午)
- 第一部 全国代議員総会(午後零時十五分)  
本部代表選挙他 党内者のみ参加
  - 第二部 報告会(午後一時〜二時) これより党外者参加可
  - 第三部 記念講演(午後二時〜三時三十分)  
講師 中村功先生  
(社)中小企業歴史経済研究所代表理事  
漁火会会長
- 演題 『少子化こそ、わが国未曾有の国難だ  
〜大企業と中小企業の賃金格差は正が喫緊の課題〜』
- 閉会式(午後三時三十分) 閉会後会場片付け
- 第四部 懇親会(午後五時) 別会場に移動
- ※出席の場合のみ同封の申込ハガキを十月末までに御投函下さい  
※参加費記念講演まで二千元、懇親会まで八千元

## 新風驟雨

純利益一兆円超、ところが納付法人税がゼロ円。これは、ある通信サービス企業の昨年度の決算内容である。この企業は買収した企業の株をグループ社内で売り買ひして損失を巧妙に計上。課税利益を作らなかつたのではないかと疑はれてゐる。金にものを言はせて優秀な会計士・弁護士などを会社顧問として雇ひ、「税逃れ」をしたのではないかと。日本国内で莫大な利益を稼ぎ出してゐるにも拘らず、国家に納付すべき法人としての税金は一円もない。企業としての公共的責任の欠如を問はれても当然である。▼莫大な利益を上げてゐるのに、法の網の目をくぐり抜け、節税と称して「税逃れ」をしてゐる企業は、この会社だけでなく、「虚業」とも言へる業界に多い。▼一般の庶民は消費増税、各種保険料の増額など、重税に喘いでゐる。その庶民から「カネ」を吸ひ上げ、自分達はますます肥え太る。このやうな企業のなんと多いことか。企業経営に国家的理念をもつた経営者は、今の日本には、段々となくなつてつあるやうな気がする。▼現代社会の不条理を国民に問ひ、とりもどせ国家の誇りと日本のくらしと声を大にして、次の参議院選挙では新風の存在を訴へていかう。(吉)

本紙目次  
一頁：  
●もはや抑へられない中国の台頭  
日本も徴兵制復活の論議を  
二頁：  
●党声明 他